



Illustration: YOSHIMI HATORI

開かれ

アクセスせよと物語は言う

入館無料

会場 高島屋史料館TOKYO
(東京都中央区日本橋2-4-1 日本橋高島屋S・C 本館4階展示室)

2026.10.24sat.-2027.3.23.tue. 10:30-19:30

休館：第2火曜〔祝日の場合は開館して翌日休館〕、12.31(木)～1.2(土)〔年末年始〕、2.24〔水・全館休業〕

主催：高島屋史料館TOKYO 監修：木ノ下裕一(木ノ下歌舞伎主宰、まつもと市民芸術館芸術監督団团长)

特別協力：三浦佑之、高木和子、安田登、横山太郎、日置貴之、有澤知世、児玉竜一

グラフィックデザイン：原田祐馬、山副佳祐(UMA / design farm) 展示デザイン：榮家志保、橋本亜沙美、仁科緑(EIKA studio)

担当学芸員：海老名熱実(高島屋史料館TOKYO)

高島屋史料館
TOKYO

開かれ

アクセスせよと物語は言う

なぜ、古典は古びないのでしょうか。何百年、あるいは千年以上も前につくられた物語が、いまなお読まれ、演じられ、姿を変えながら伝わってきましたが、それを単に「優れた作品だから生き残った」とだけ説明してよいのでしょうか。

今日「古典」と呼ばれるもののほとんどは、最初から多くの人に開かれていたわけではありません。文学や芸術を享受できる人々と、そこから隔てられた人々とのあいだには、身分、性別、世代、地域、身体、経済状況など、さまざまな境界がありました。では、そうした境界を越えて、文学や芸術はいかに人々へ開かれてきたのでしょうか。その歴史をひもとくと、今日「古典」と呼ばれるものの歩みには、それを人々へ届けるための試行錯誤と工夫、そして新たな表現を生み出そうとする創意が見えてきます。本展では、こうした古典の

「アクセシビリティ」の歴史をたどります。第1章の『古事記』から、第2章『源氏物語』、第3章『平家物語』と能、第4章の近世の歌舞伎と黄表紙まで。そこから見えてくるのは、文化や芸術をめぐる「開かれ」のあり方が、時代とともに幾度も組み替えられてきた歴史でもあります。

そもそも、「開かれる」とは何を意味するのでしょうか。境界を越えることは、境界そのものがなくなることはありません。ある人々に開かれることで、別の境界が生まれることもあります。何かを「開かれたもの」と呼ぶとき、その外側にはなお「閉じられたもの」が残されているのかもしれない。

開くことと、閉じること。その境界を人々はいかに動かし、引き直してきたのか。古典の歩みを通じて境界を問い直すことで、現代、そして未来における芸術の「開かれ」について考えてみたいと思います。



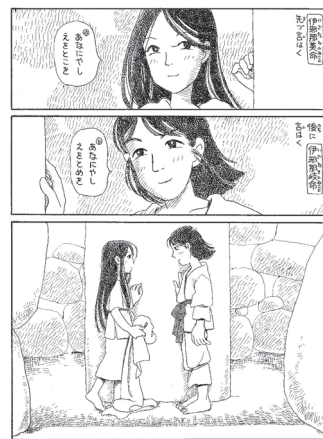
『平家物語』人形「源義経」
作：川本喜八郎 1993年 所蔵：渋谷区



京都官権院で使用された木刻凹凸文字
(複製パネル) 1880年前後
撮影：岸博実 提供：京都府立官学校



『古事記(寛永版本)』宣長手沢本 上巻 本文冒頭
(複製) 提供：本居宣長記念館



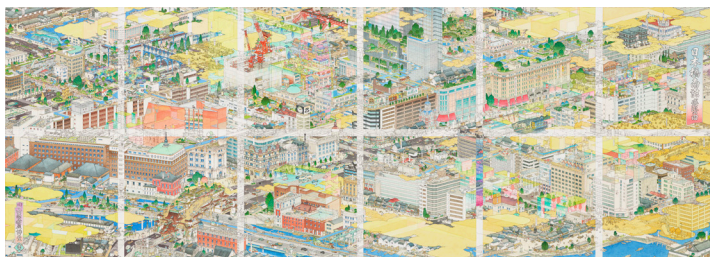
『ぼるべん古事記』第1巻P32 平凡社(複製)
2012年 画：こうの史代



『患者歌舞伎』全生病院(現 多磨全生園)
1928年 提供：国立ハンセン病資料館



映像『平家物語 那須与一』
平家琵琶：今井校校勉 2007年
提供：東京藝術大学未来創造継承センター・小泉文夫記念資料室



《日本橋南詰盛況乃圖》画：山口晃(2021) 撮影：宮島隆 所蔵：高島屋史料館

©YAMAGUCHI Akira, Courtesy of Mizuma Art Gallery

※11月11日(水)～2027年1月8日(金)の期間については複製パネルでの展示となりますのでご了承ください。

(上記展示期間については変更になる可能性があります。WEBサイト/SNS等で最新の情報をご確認ください)

会期 2026年10月24日(土)～2027年3月23日(火)
開館時間 10:30～19:30
場所 高島屋史料館TOKYO4階展示室
休館 毎月第2火曜[祝日の場合は開館して翌日休館]、
12月31日(木)～1月2日(土)[年末年始]、2月24日[水・全館休業]

イベント開催のご案内

会期中、トークイベントの開催を予定しております。詳細が決まり次第、当館WEBサイト / SNSにてご案内いたします。

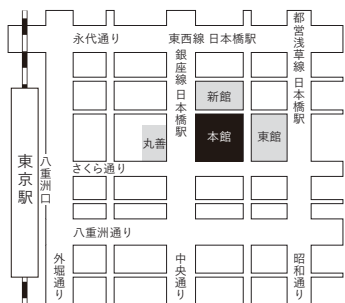
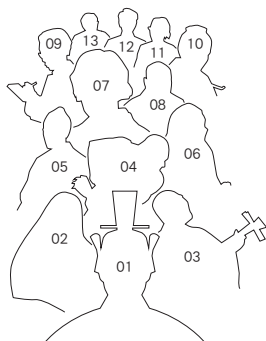
* イベント内容が変更となる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

* 募集開始になりましたら「開催予定のイベント」ページに詳細が掲載されます。



《イラストの人物と参考図版》

- 01 世阿弥／月岡耕漁 画「井筒」(『能楽百番』シリーズ49番)
- 02 紫式部／土佐光起 画
- 03 琵琶法師／「職人尽歌合(七十一番職人歌合)」
- 04 二代目市川團十郎／鳥居清信 画「二代目市川團十郎の虎退治」
- 05 本居宣長／「本居宣長六十一歳自画像」
- 06 北村季吟／「北村季吟画像」
- 07 与謝野晶子／『日本文学アルバム 第16』
- 08 蓮如／「蓮如上人御寿像」
- 09 戸板康二／「1955年、蘇州にて」(wikimedia commons)
- 10 山東京伝／鳥橋斎栄里 画「江戸花京橋名取」
- 11 こうの史代
- 12 山口晃
- 13 木ノ下裕一



高島屋史料館 TOKYO (東京都中央区日本橋2-4-1)

日本橋高島屋S.C. 本館4・5階

*5階旧貴賓室は、対面でのイベント開催時のみ開館します。

<https://www.takashimaya.co.jp/shiryokan/tokyo/>

・JR「東京駅」八重洲北口から徒歩5分

・東京メトロ 銀座線・東西線「日本橋駅」直結

・都営地下鉄 浅草線「日本橋駅」から徒歩4分

*駐車場は大変混雑しております。お車の出庫には非常に時間がかかるため、ご来館の際は公共交通機関のご利用をお願いいたします。

高島屋史料館
TOKYO